

おおまち・フラッグストリート・プロジェクト

～大町通りの女性のアーカイブスと情報をもとにしたまちの活性化提案～

a2200816 佐々木 自然

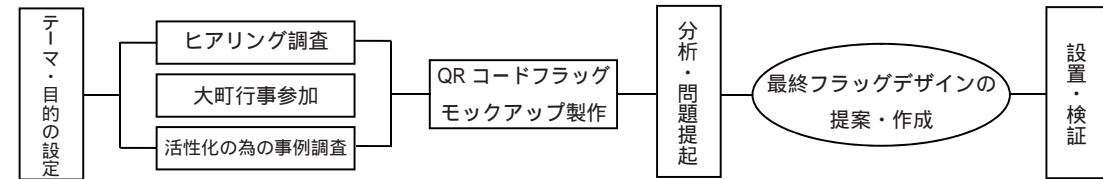
【研究概要】

会津若松市の大町通りで商売、生活をしている女性に焦点を当てて研究し、「このまちには こんな特徴がある、こんな人がいる」という風な情報が感じられる通りになるように、彼女たち自身の個性や特技などを生かしたまちづくりを行う。大町通りを景観的に活性化させる手段として、女性たちの情報を入れた会津木綿のフラッグを作り、各商店と通りの空間を彩るものを提案・製作をする。

【研究の背景・目的】

会津若松市のメインストリートであった大町通りでは、空洞化や道路整備問題、後継者不足、複数の団体の独自性などの問題がある。しかし、アネッサクラブの活動を知るなどして、大町通りで暮らす女性について興味を持つようになり、「まちの成り立ち、本質を女性の視点から考える」というコンセプトを持ち、大町通りという都市空間において人とのつながりを大切にしたいまちづくりを目指して、研究・提案をしていきたいと考えた。そこで、大町通りに今よりもたくさんの方が訪れ、活気が溢れて、これ以上大町通りが衰退していかないように、景観に女性たちの情報を取り入れた会津木綿のフラッグを作る。このフラッグによって大町通りが魅力溢れる都市空間になるようにしたい。大町通りの魅力が、大町通りに住む人と訪れる人々に伝わる空間にすることを目的とする。

【研究方法】



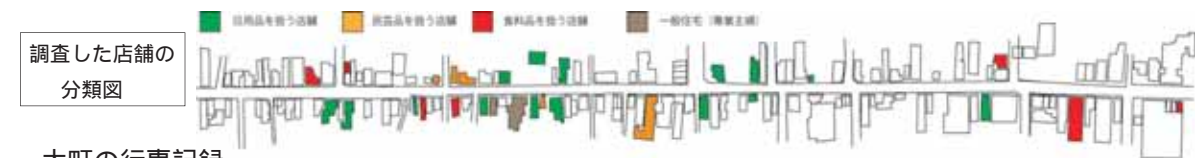
【調査】

ヒアリング調査 30件

会津若松市の大町通りの通り沿いに面していて、そこで商売、生活をしている女性に対してヒアリング調査を行った。内容として、大町での在住年数や、出生地等を問う女性自身のプロフィール調査と、大町通りの素敵なところを見つけるために、生活していて良い又は不便だと感じる事等、大町通りで生活していて感じる事について聞き取り調査を行った。



佐原茶舗の和香子さん 小野寺漆器店の裕子さん



大町の行事記録

大町通りでは、年中を通して様々な行事が行われている。基盤はアネッサクラブが作っているが、都合上アネッサクラブを退会した店舗なども協力して行事は執り行われている。また、本年はORP(おおまち通り再生プロジェクト)の発足により、ORPとアネッサクラブの協同によって11月3日に「大町文化祭」というものが行われた。大町通りの行事にはたくさんの方が集まり、賑わっていた。大町の行事をたくさん知り、参加する事ができた。また、様々な行事に参加することで、大町の方たちとの親睦を深めることが出来たことが良かったと感じる。



大町夏祭り 会津流しかんじょ踊り 今昔癒し空間 松屋衣料店 ORP 9月定例会 大町文化祭 はいからさん

活性化のための事例調査

参考
・「虹」 ダニエル・ビュレンヌ
場所：茨城県水戸市南町3丁目商店街
概要：7色81枚のストライプの旗が商店街アーケードにはためく。西から歩いていくと赤色から紫色へ、東から歩いてくると紫色から赤色へ変わっていく様子がみられる。

調査
日時：2009年9月24日(木)
場所：福島県湖南町
概要：茨城街道沿いの元宿場町で栄えていた場所。現在はまちづくりを行ってはいないが、昔栄えていたことを忘れないために、史談会が作ったものである。木製の看板に各屋号を書き、通りに連ねてあり、独特の雰囲気を感じられる。



茨城市商店街「虹」 元宿場町・湖南町 参考・調査から、大町通りの女性のアーカイブスをまとめたものを、大町という都市空間にアウトプットする方法として、とおりを彩ることを考えた結果、フラッグを用いてみようと考えた。

【フラッグの製作】

- 1, スケッチ
- 2, 素材・大きさを決定
- 3, モックアップの作成
- 4, 原山織物工場にて会津木綿の購入
- 5, シルクスクリーンの作成
- 6, ステンシルの作成・転写
- 7, ポケットの作成
- 8, パンフレットの作成

フラッグの提案をする際に、初めは、QRコードとWEBサイトを使ったフラッグにしようと考えていたが、QRコードの活用性などを考え、もっとストレートにフラッグに女性たちのアーカイブスを載せられないかと考えた。その結果、会津木綿に転写することにした。デザインは「会津木綿=和=大町通り」をイメージして行書体を使い、縦のラインを意識したシンプルなものにしようと考えた。転写する内容としては、ヒアリングしてまとめた各店舗の女性のエピソード 店舗名又は屋号 女性の顔写真と私の卒業研究名を掲載したポケット、である。の内容は転写する方法として、会津学鳳高校の美術担当の梅乃先生にご協力いただき、シルクスクリーン印刷に取り掛かった。は店舗名の文字柄を厚紙に切り抜いて、色を塗るステンシルの方法にした。はアイロンプリントに作成した画像を印刷して、下と両横3辺を直接会津木綿に接着した。そのポケットの中に、アーカイブスを一つにまとめた、まち歩きパンフレットを入れて完成とする。



木枠(シャー)の作成



紫外線を使ってシルクスクリーンの作成



12件分作成



会津木綿に転写

印刷後、乾燥



各店舗ごとの女性のアーカイブスと情報を基にしてまとめたものをシルクスクリーンで会津木綿に印刷したもの

【フラッグ設置・考察】

フラッグを製作していく中で、大町の女性達やお店のご主人方に相談して、参考になる様々なアドバイスを頂いたり、製作に必要な材料があれば持っていきなさいというような暖かい支援を頂いたりした。また、学鳳高校の梅乃先生や原山織物工場の方々の協力のおかげで作り上げることが出来た。設置・検証の際に、なによりも商店の女性達がとても喜んでくれた。実際にフラッグを見た大町の女性たちが近所のお店の女性の事を「あ～この人、下の名前こう言うんだ～！」などという風に情報を知る手段となったことが印象深かった。しかし、デザイン提案から製作作業に移るまで時間がかかり過ぎてしまった。フラッグの文字には行書体を用いてみたが、店舗によってはファサードの雰囲気と合わないお店もあったのが問題点だった。最後に、大町通りの方達がこのフラッグを気に入り、今回ヒアリング調査を行えなかった他の店舗の方達もこれに賛同して、大町通りが伝統の会津木綿で通りを彩ることが出来たら良いなと感じた。



店舗の軒下に下げた様子